

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		わくわくエジソンあべの帝塚山教室					公表日		2025年 5月 1日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		・ドアは自動ロックをしています。					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%		・部屋の中にはドアがないので見やすいです。					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		・目的ごとに部屋が分かれている ・パーティションも置いています。					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		・遊具など置ける広い空間はあります。					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		・パーティションなどで一人になれる空間はあります。 ・個室がある					
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%		・スタッフ会議でされている					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		・保護者さんとのコミュニケーションをはかっています ・教室内に掲示					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		・週一で行っている					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%		・福祉会社の人達と交流を深めています。 ・年一回事業所評価をしている					
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		・外部から福祉大学の先生と勉強会をしています。					
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		・毎日違うプログラムをしています。					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%		・保護者とコミュニケーションを積極的に行っています					
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		・会議を行って情報交換をしている					
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%							
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		・会議などで意見交換している					
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%							
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		・偏らないやつに工夫してある					
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		・スタッフも入れ替わって毎日プログラムをやっています					
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%		・責任者が個別支援計画をおこなっている					

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		・グループチャットの活用	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	200%	33%	・会議で共有しています	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	300%		・業務日誌をつけています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		・福祉会社との交流を月一回おこなっています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	67%	33%	・提携している医療機関がある ・障害福祉会社とのコミュニケーションをしています	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		・学校や幼稚園などとコミュニケーションをとっている	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	300%		・学校や保護者と連絡交換しています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	33%	67%	・福祉の大学の先生と会う機会をもうかけている	・機会があれば参加したい
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
保護者への説明等	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	33%	67%	・お迎えにのときに交流をおこなっている	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	67%	33%	・親子イベントなど行っている	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		・契約時に説明を行う	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		・保護者が子供に望んでいることを子供に支援に取り組んでいます ・半年に一回モニタリングを行う	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%		・保護者から子供にしてほしい支援を聞いてそれに合った支援をしている	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		・保護者と面談を行なっている	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	33%	67%	・親子イベントなどしている	・あまりない
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		・保護者からの相談内容にあった支援をおこなっている	

	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%		・Instagramやホームページにてできている	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		・些細なことでも情報共有	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	67%	33%	・福祉会社のスタッフと交流をもっています。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		・マニュアル本を事務所に配置しています	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		・プログラムで避難訓練の自習を行なっている	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%		・発作が起きた場合の対応マニュアルがある ・保護者から聞いてノートにまとめている	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%		・発作が起きた場合のマニュアルがある ・医師の指示で対策をしている	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%		・プログラムで避難訓練などの練習を行っている	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%		・何かあればすぐにお知らせする	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		・会議などで共有している	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		・事務所内にマニュアル本を参考している ・年一で開催	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%		・保護者と共有しています	